

2023年11月6日

“関西初”専用リターナブルボトルを 使用した家庭系廃食用油の回収！

～11月4日(土)から「イトーヨーカドー 津久野店」で開始～

株式会社イトーヨーカ堂（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：山本 哲也、以下イトーヨーカドー）は、2023年11月4日(土)から、専用リターナブルボトル（回収容器）を使用した食用油の回収の取り組みを関西地域で初めて「イトーヨーカドー津久野店」にて開始いたしました。

専用リターナブルボトルは店舗のサービスカウンターにて無料で提供しており、お客様にお持ち込みいただいた食用油は、サービスカウンターまたは専用回収器で回収いたします。

家庭系廃食用油は日本全体で年間約 10 万トン発生しており、ほとんどが再利用されず可燃ごみとして廃棄されている一方で、廃食用油はバイオ燃料やインク溶剤等に原料として活用できます。そこで、イトーヨーカドーは回収された家庭系廃食用油を植田油脂株式会社（本社：大阪府大東市、代表取締役社長：高橋 史年）（回収・リサイクル処理）、および ENEOS 株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：齊藤 猛）（専用リターナブルボトルの提供）と連携し、石鹼・インク溶剤等の製造に活用することで、再利用してまいります。また、「大阪・関西万博」の会場建設において建設機器やディーゼル車両の軽油の代替としての活用も検討しています。

なお、回収された家庭系廃食用油の一部は、将来的には回収された廃食用油を持続可能な航空燃料※（Sustainable Aviation Fuel、以下「SAF」）の原料として活用することを目指しています。

イトーヨーカドーは今後も回収店舗を拡大し、お客様とともにリサイクルの仕組みを構築し、CO₂排出量の削減と資源循環型社会の実現に向けた取り組みを続けてまいります。

※持続可能な航空燃料（Sustainable Aviation Fuel・SAF）

廃食用油や獣脂などの非化石原料から製造する航空燃料。化石燃料由来の燃料に比べ、温室効果ガスである CO₂ 排出量を抑えることができる。ENEOS 株式会社は 2026 年の稼働を目指して事業化調査を行う SAF の製造プラントに、家庭系廃食用油を原料の一部として供給することを目指す

<初日イベントの様子>



▲ 家庭系廃食油イベント会場（左）、サービスカウンター設置の専用回収器（右）

<【専用リターナブルボトル】※株式会社野村事務所によるデザイン・制作>



従来の家庭系廃食用油の回収の多くは使用済みペットボトルにより行われておりましたが、専用リターナブルボトルを使用する事により、洗浄し繰り返し使用することで、ゴミを発生させない取り組みとなっております。